

タスクシフトで広がる検査 内視鏡検査の現在（いま）と未来（これから）

当院内視鏡センターにおける臨床検査技師の役割 ～看護師との協働について～

◎竹嶋 郁子¹⁾、竹嶋 郁子¹⁾、加藤 奈保美¹⁾、宮内 洋子¹⁾
大阪府済生会中津病院 看護部¹⁾

【背景・目的】この度、臨床検査技師の法改正により、内視鏡用生検鉗子を用いて消化管の病変部位の組織の一部を採取する行為が追加になった。当院内視鏡室は、35年前より臨床検査技師と看護師が、それぞれの専門的役割と責任を持って協働してきた。今後、新たに参入する施設に向け、当院における臨床検査技師と看護師との協働について、看護師視点での報告をする。

【役割分担】当院では、医師・臨床検査技師・看護師の3人が1人の患者の検査・治療に携わっている。臨床検査技師は、医師の介助、感染対策、内視鏡機器の管理・点検及び患者の検体処理や保管を行っている。看護師は、患者の問診から検査中の看護、検査後の説明までを担当している。リーダー看護師が、医師、技師との連携をとり検査の采配をしている。

【考察】内視鏡分野においては、検査に留まらず侵襲の少ない高度な治療と検査が出来るようになり、内視鏡室における看護の必要性が求められた。その後、内視鏡治療の専門性・特殊性が高まり、多職種でのチーム医療の重要性も注目された。内視鏡検査では、日常的に組織検体や細胞検体また、細菌検体が採取される。これらの検体は、採取方法や取り扱いが適切に行われない場合、病理診断や細菌検査の結果に大きく影響を与えるため専門的な知識が必要である。当院では、臨床検査技師が内視鏡業務に従事しており、さらに消化器内視鏡技師の認定資格を取得し、看護師と役割分担を行っている。それにより看護師は、内視鏡看護に専念でき、患者の細やかな看護の提供に繋がっていると考える。また、検査前には、患者情報や検査治療目的等ブリーフィングを行い、個々の患者に応じた検査介助を行っている。情報を共有する事で、患者の状態変化や急変時には技師の協力も得られ、私達にとっては安心で頼もしい存在である。患者は不安や緊張の中にいるため、私達スタッフは、患者に寄り添い、安全で安心・満足な検査・治療の提供ができることを目標にしている。多職種が協働することで、良い医療チームができ、患者満足度の向上に繋がっていると考える。

【結語】臨床検査技師は、内視鏡部門において専門性を発揮できる場である。今後は、お互いの業務において共有部の協力や理解、教育さらなるコミュニケーションが必要と考える。

連絡先：大阪府済生会中津病院 看護部
TEL：06-6372-0333（代表）